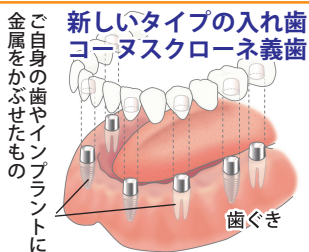




⑬⑨ インプラント専門医の勧めるコーヌスクローネ義歯⑭④

つい先日行われたインプラント学会で、インプラント治療をした方が高齢になり、管理するために自分の歯のように噛めていたインプラントの歯の部分を入れ歯に変更せざるを得なくなった患者様を多く見てきた高名な先生のお話を聞きました。その先生は、患者様から「本当は以前のように固定した歯が良かった。インプラント治療をして快適だったのに、高齢で管理できなくなったなら入れ歯になるとは思わなかった」と言われ残念だった

とおっしゃっていました。昔は「歯が痛い」「噛めない」など困った時だけ歯科医院にお世話になるというのが普通でしたが、元気に働ける時代は気にならなかった歯も退職後や体の動きが鈍ってきたら少し考え方を変えな



くてはなりません。忙しく働いている頃は、「体の事は仕事が落ち着いた時にじっくり考えよう。特に歯は命に関わらないだろうから二の次でいいや」と思っていて、いざ年を取って仕事を辞めたら、将来が不安だから歯にはお金をかけられないという方が多くいます。

しかし、若い内に歯の大切さを知った方は、どんなに忙しくても歯の治療のためには時間を作ってくれます。なぜなら歯が寿命に関わる事が分かってきたからです。歯は、治したらオッケーではなく、治し終えてからが始まりです。人生100年時代と言われて平均寿命が延びている今、噛む事を維持するためには、歯も管理できなくてはなら

なくなってきたのです。車は動かなくなったり壊れたりしなくても、点検や車検が法律で決められており、整備不良等での事故を減らす効果もあります。車の整備を怠る事は法律違反ですが、歯の管理に関しては各自のやる気と想いです。幸せな人生を送るためにも管理できる治療を選びましょう。そして、管理できるようにするためには取り外せることが一番です。ところが、今までの取り外せる入れ歯は違和感が多く、噛み応えがあつておいしく食べる事は困難でした。冒頭の管理できないから入れ歯のタイプになつてしまう従来の治療法も、改良されたコバルトコーヌスという治療法であれば、デメリットを少なくし、たとえ寝たきりになつても管理をし

てもらえる物です。取り外しタイプでも噛み応えがあり、おいしい食事ができる画期的な治療です。福祉大園ドイツで古くに開発された理論の治療が人生百年時代にやっと認められた治療と思います。やる気と想いのある方はぜひご相談ください。



院長の無料相談

木村匡司院長がお口の相談に応じます(要電話予約)。

歯の無料健康講座

次回は、12月14日(土)
15時30分から約60分

通話料無料 フリーダイヤル 0120-255-418